【第22回】南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会 【第400回】地震防災対策強化地域判定会

一 産 総 研 資 料 一





国立研究開発法人 **産業技術総合研究所**

【資料目次】

表紙

1.	東海地域中部	「榛原.	静岡栗原	(草薙)]	地下水:	中期
						1 / 7 /

- 2. 東海地域中部 [榛原,静岡栗原(草薙)] 地下水;長期
- 3. 東海地域南部 [大東,小笠,浜岡,御前崎] 地下水;中期
- 4. 東海地域南部 [大東,小笠,浜岡,御前崎] 地下水;長期
- 4-b. 東海地域南部 [浜岡] 地下水·沈下;長期
- 4-c. 東海地域南部 [掛川] 地下水·沈下;長期
- 5. 東海地域西部 [豊橋, 豊橋多米(豊橋東)] 地下水·歪·傾斜; 中期
- 5-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等;中期
- 6. 東海地域西部 [豊橋·豊橋多米(豊橋東)] 地下水·歪·傾斜;長期
- 6-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等;長期
- 7. 伊豆半島東部 [松原174,大室山北,冷川南] 地下水;中期
- 8. 伊豆半島東部 [松原174, 大室山北, 冷川南] 地下水; 長期
- 9-a. 榛原・浜岡の降雨グラフ;中期
- 9-b. 榛原・浜岡の降雨グラフ;長期
- 10. 東海・紀伊半島・四国における短期的SSE解析結果







4



産業技術総合研究所 資料-3







產業技術総合研究所 資料-4c



東海地域西部 (豊橋多米 歪) 中期 (時間値) (2019/05/01 00:00 - 2019/08/01 00:00 (JST))

豊橋多米(豊橋東)歪N356E[x10-9] 豊橋多米(豊橋東)歪N356E(BAYTAP)







東海地域西部 長期



コメント:*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明. @;月初めの補正値のギャップは, 解析プログラムの見かけ上のものである. 松原174号井は静岡県による観測. 松原174の水位計が長期的にドリフトしていることが 分かったので,2014年7月4日に新水位計を設置し, 更に2017年10月12日に交換した.



コメント:*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.
松原174号井は静岡県による観測.
松原174水位計が長期的にドリフトしていることが分かったので、2014年7月4日に新水位計を設置し、更に2017年10月12日に交換した.
松原174の水位は2017年10月29日~11月6日頃まで断続的に管頭から水があふれた.





コメント:トレンドは、グラフに示している期間で求めている.



コメント:トレンドは、グラフに示している期間で求めている.

產業技術総合研究所

2019年6月23日から6月28日にかけて、三重県・愛知県において深部低周波地震活動が観測された(図1)。図2は三重県・愛知県・滋賀県の産総研・気象庁・防災科研の観測点における歪・傾斜・地下水の観測結果である。歪・傾斜・地下水の結果はBAYTAP-Gにより気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2019年6月17日から23日のデータを用いて1次トレンドを除去したものである。

図 3,4 はそれぞれ図 2[A],[B]の変化を説明する短期的 SSE の推定結果(Mw 5.7,5.8)である。今回の活動域付近における最近の短期的 SSE の活動は,2019 年 2 月 3 日から 6 日午前(Mw 5.9;図 3,4 の灰色矩形 1),2019 年 2 月 6 日午後から 9 日午前(Mw 5.6;同 2),2019 年 2 月 9 日午後から 12 日午前(Mw 5.3;同 3),2019 年 2 月 10 日から 15 日(Mw 5.8;同 4),2019 年 2 月 16 日から 18 日(Mw 5.5;同 5),2019 年 2 月 28 日から 3 月 1 日午前(Mw 5.7;同 6),2019 年 3 月 1 日午後から 3 日(Mw 5.6;同 7),2019 年 4 月 22 日午後から 23 日(Mw 5.6;同 8)である。

2019 年 7 月 21 日から 27 日にかけて,三重県・奈良県において深部低周波地震活動が観測された (図 5)。図 6 は三重県の産総研・防災科研の観測点における歪・傾斜の観測結果である。これらの 結果は BAYTAP-G により気圧応答成分,潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き,2019 年 7 月 7 日から 13 日のデータを用いて 1 次トレンドを除去したものである。

図 7,8 は図 6[A], [B]の変化を説明する短期的 SSE の推定結果(Mw 5.7,5.6)である。今回の活動 域付近における最近の短期的 SSE の活動は、2018 年1月4日から5日(Mw5.3;図7,8の灰色矩形 1),2018 年6月22日午後から25日午前(Mw5.6;同2),2019 年1月19日午後から24日午前(Mw5.6; 同3),2019 年2月10日から15日(Mw5.8;同4),2019 年2月16日から18日(Mw5.5;同5), 2019 年6月25日午後から28日(Mw5.7;同6)である。

解析方法

短期的 SSE の断層面推定には、それぞれの観測点の水平歪 4 成分、体積歪、地下水圧、もしくは傾 斜 2 成分の記録を用いる。地下水圧は、O1 および M2 分潮の振幅を BAYTAP-G [Tamura et al., 1991] により計算し、GOTIC2 [Matsumoto et al., 2001]により推定した地球固体潮汐および海洋荷重潮汐 (O1 および M2 分潮) との振幅比を用いて、体積歪に変換する。歪・地下水・傾斜ともに、観測波 形から BAYTAP-G により、気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除く。また、イ ベント直前の期間を用いて 1 次トレンドも取り除く。深部低周波地震活動も参考にして、数時間~半 日単位で活動開始・終了時期を判断し、その期間の変化量を短期的 SSE による変化量とする。その際、 歪については Matsumoto et al. [2010]の手法で理論潮汐歪を用いてキャリブレーションを行ってい る。

断層面の推定は,計算時間の短縮と,推定された結果の一意性の確認のために2段階で行う。断層 面推定は板場ほか[2012]の手法を用いた。フィリピン海プレート境界面上[弘瀬ほか,2007]に多数の 断層面を仮定してグリッドサーチにより推定する。仮定した断層面上のすべりによって各観測点で期 待される歪変化の計算には Okada [1992]のプログラムを用いる。1 段階目には,断層面のサイズは

17

幅・長さ共に20 kmで固定し,断層面の位置(0.1°間隔)およびすべり量(1-50 mm)のみ可変と して計算を行う。1 段階目の結果を示す図では、それぞれの断層面において最適なすべり量を与えた ときの、観測値とそのすべり量による計算値との残差の総和の分布を示している。これにより、短期 的 SSE が生じている可能性が高い領域を絞り込むとともに、2 段階目で推定された結果の任意性を確 認することができる。2 段階目では、1 段階目で絞り込んだ領域(=残差が小さい領域)付近で、位 置及びすべり量に加えて、断層面の長さ(10-80 kmの間で1 km 間隔)および幅(10-50 kmの間で 1 km 間隔)を可変として計算を行なう。その結果、観測値との残差が最小となる解が1つ計算され るが、計算に使用している観測点数が少ない場合や、断層面と観測点配置の関係によっては任意性が 高くなるので注意が必要である。なお、異種観測値を統合して解析するため、観測点ごとに残差をノ イズレベルによって規格化している。ノイズレベルは、気圧応答、潮汐成分およびホワイトノイズ成 分を取り除いた後(微動活動が活発な期間および周辺の日雨量 50 mm を超える時期を除く)の24 時 間階差の2σとした。

謝辞

短期的 SSE の断層モデル推定には,防災科研 Hi-net 高感度加速度計(傾斜計)および気象庁の多 成分歪計および体積歪計の記録とキャリブレーション係数を使用しました。深部低周波地震の震央位 置表示には,気象庁の一元化カタログを使用しました。ここに記して感謝します。

参考文献

弘瀬冬樹, 中島淳一, 長谷川昭 (2007), Double-Difference Tomography 法による西南日本の3次元 地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定, 地震2, **60**, 1-20.

板場智史,松本則夫,北川有一,小泉尚嗣,松澤孝紀,歪・傾斜・地下水統合解析による短期的スロ ースリップイベントのモニタリング,日本地球惑星連合2012年大会,千葉,5月,2012.

Matsumoto, K., T. Sato, T. Takanezawa, and M. Ooe, GOTIC2: A Program for Computation of Oceanic Tidal Loading Effect, *J. Geod. Soc. Japan*, **47**, 243-248, 2001.

Matsumoto, N., O. Kamigaichi, Y. Kitagawa, S. Itaba, and N. Koizumi (2010), In-situ Calibration of Borehole Strainmeter Using Green's Functions for Surface Point Load at a Depth of Deployment, *Eos, Trans. AGU*, Abstract G11A-0626.

Okada, Y. (1992), Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, **82**, 1018-1040.

Tamura, Y., T. Sato, M. Ooe and M. Ishiguro (1991), A procedure for tidal analysis with a Bayesian information criterion, *Geophys. J. Int.*, **104**, 507-516.



図1 紀伊半島から東海地方における深部低周波地震(気象庁)の時空間分布図 (2019/06/17 00:00 - 2019/07/10 00:00 (JST))

(観測点) TYS:豊田神殿, NSZ:西尾善明, ANO:津安濃, ITA:松阪飯高, MYM:紀北海山, ICU:熊野磯崎, HGM:田辺本宮



図2 紀伊半島から東海地方における歪・傾斜・地下水観測結果 (2019/06/17 00:00 - 2019/07/10 00:00 (JST)) [A] 2019/06/25PM-28

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



図3 2019/06/25PM-28の歪・傾斜・地下水変化(図2[A])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を 選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/02/03-06AM (Mw5.9), 2: 2019/02/06PM-09AM (Mw5.6), 3: 2019/02/09PM-12AM (Mw5.3)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/02/28-03/01AM (Mw5.7)

7: 2019/03/01PM-03 (Mw5.6), 8: 2019/04/22PM-23 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3)体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。地下水は体積歪に変換して計算している。



図4 2019/06/29-07/03AMの歪・傾斜変化(図2[B])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を 選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

- 1: 2019/02/03-06AM (Mw5.9), 2: 2019/02/06PM-09AM (Mw5.6), 3: 2019/02/09PM-12AM (Mw5.3)
- 4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/02/28-03/01AM (Mw5.7)
- 7: 2019/03/01PM-03 (Mw5.6), 8: 2019/04/22PM-23 (Mw5.6)

A: 2019/06/25PM-28 (Mw5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3)体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。



図5 紀伊半島における深部低周波地震(気象庁)の時空間分布図 (2019/07/13 00:00 - 2019/08/01 00:00 (JST)) (観測点) ANO:津安濃, ITA:松阪飯高, MYM:紀北海山,

ICU:熊野磯崎,HGM:田辺本宮,KST:串本津荷



(2019/07/07 00:00 - 2019/08/01 00:00 (JST))



図7 2019/07/21PM-22の歪・傾斜変化(図6[A])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を 選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2018/01/04-05 (Mw5.3), 2: 2018/06/22PM-25AM (Mw5.6), 3: 2019/01/19PM-24AM (Mw5.6)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/06/25PM-28 (Mw5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

25



図8 2019/07/23-28の歪・傾斜変化(図6[B])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を 選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2018/01/04-05 (Mw5.3), 2: 2018/06/22PM-25AM (Mw5.6), 3: 2019/01/19PM-24AM (Mw5.6)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/06/25PM-28 (Mw5.7)

A: 2019/07/21PM-22 (Mw5.7)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

26